

ALBATECH NEWS

アルパテックニュース

農業＋太陽光で W の収益
全国に広がる！
「SOLAR営農」



再生エネルギーで地域活性化
エネルギー自立
のむらづくり



WEB版アルパテックニュース開設！

弊社ホームページでアルパテック PDF 版（バックナンバー含む）
をダウンロード出来る様になりました。

2015
3月号

なぜ「SOLAR 営農」が選ばれるのか？

2014年10月に群馬県太田市成塚町に、太田市一時転用認可第一号となる「ソーラーシェアリング 太田第一号発電所」(24kW)が完成しました。



【ソーラーシェアリング 太田第一号発電所】

その後、12月に「ソーラーシェアリング 太田第二号発電所」(48kW)も完成。

施主の株式会社 強戸柳文様はプロパンガスの販売を中心とした事業を行う会社で、地域の活性化、ソーラーシェアリングによる再生エネルギーの地産地消への取り組みの一環として二つの発電所を設置されました。

また、昨年に群馬県沼田市には「ソーラーシェアリング マツイデンキ第一太陽光発電所」



【ソーラーシェアリング マツイデンキ第一太陽光発電所】

(288kW)が完成。既に昨年12月から売電を開始しており、年間1,200万円の売電収入を見込んでいます。施主の松井電気商会様は家電販売を手がけていましたが現在は不動

産が専門。

今回は松井社長が所有する約3,500㎡の敷地に出力288kWのソーラーパネルを設置しました。



【たくやま太陽光発電所】

その他にも個人の施主様ですが、昨年11月に山梨県中央市の一時転用認可第一号になる「たくやま太陽光発電所」(48kW)も完成。営農作業も順調に進んでいます。

このように各地で次々と一時転用認可第一号の営農型太陽光発電所として選ばれる「SOLAR 営農」。

そのアピールポイントの一つがパッケージに含まれる、申請代行のお手伝いです。個人で「一時転用の認可」を取得するのは大変に困難な作業です。その点、「SOLAR 営農」は今まで蓄積されたノウハウを使い一時転用に必要な書類や「営農計画書」の作成、農業委員会との交渉等の手伝いまでをサポートいたします。

その他にも充実した保証と補償等、他社にはないサービスを備えた一歩先行く営農型太陽光発電システムパッケージ商品。それが「SOLAR 営農」です。

「SOLAR 営農」は今後も次々と全国で展開していきます。

続報、エネルギー自立のむらづくり事業



避難所とその横に設置された太陽光発電設備

前回お伝えした兵庫県が行う「エネルギー自立のむらづくり支援事業」が朝来市与布土に続き、豊岡市但東町三原区でも認定され、2015年2月23日に「高齢者生活支援センターみはら」にて完成説明会が行われました。

施工は、北近畿太陽光発電普及促進協会の会員であり、北近畿の太陽光普及のため弊社と共に活動をおこなっているキヅキ商会が行いました。

三原区では、世帯(人口)減少、区費負担の増加等、将来への心配を背景として、

- ①地域住民による、災害停電時のイメージ化
- ②自然エネルギーを持つ事による可能性
- ③災害への備え(知っておく事)の大切さ
- ④まだ大変めずらしい、緊急用蓄電池の設置

の4つをポイントにかかげ、三原区避難所横の空き地内に合計104枚(21.84kW)の太陽光パ

ネルによる「太陽光発電設備」を設置、避難所施設内には「蓄電池施設」(5.53kW)が設置されました。

太陽光発電設備では年間約20,000kWhの発電を予定し、発電した電気は電力会社に売却し年間65~80万程度の売電収入を見込んでいるそうです。



設置された蓄電池

また蓄電池は、災害時に電力会社からの送電が停止しても、避難所のトイレ、電話、暖房等が使う電気を賄うことが出来ます。

過疎の進む集落地帯における非常時の電気設備は十分とは言えず、設置が容易な太陽光発電設備だからこそ出来る画期的な再生エネルギーにより地域の非常時の電気設備を利用する事が出来ると言えます。

電気の地産地消が生む、地域の安全を推進するモデルケースだと言えるでしょう。

株式会社アルパテック **ALBA TECH** アルパテックニュース

発行日：2015年3月10日

発行元：株式会社アルパテック 東京本社

〒101-0025 東京都千代田区神田佐久間町 3-27-1 大洋ビル 102

TEL: 03-5823-4580 FAX03-5823-4582

www.alba-tech.jp